

学年末を迎えて

今年の冬は暖かい日が続き、学校周辺を歩いていると3月初めにはすでに土筆が胞子を飛ばし切っていました。また桜も例年より早く開花しているようです。この地方でも今日にも開花宣言が出されるのではないのでしょうか。

さて、今日3月19日は修了式です。新型コロナウイルスによる肺炎の感染拡大防止のため、残念ながら学校で修了式を行うことはできませんが、学年末の大切な区切りとして生徒の皆さんにメッセージを送りたいと思います。

3月2日より学校はすべて一斉臨時休業となりました。必要な情報はすべてメールで配信し、また休業中の課題についてもメールとHPを通して伝えています。来年度用教科書は昨日と本日、午前午後に分けて購入することとしました。皆さんはどのように毎日を過ごしていますか。高校の年間授業日数はおよそ200日です。さらに土日祝の行事や部活動などを含めるとおよそ300日程度を学校で過ごしていることになります。この度の臨時休業で一部の人には部活動を許可しましたが、多くの人は30日ほど登校しないこととなります。夏休みはおよそ35日ですから、同じくらいの日数を自宅で過ごすこととなります。

休業となっても学習内容は減りません。大学入試においても考慮はされません。「ピンチをチャンスに」と言われます。このピンチをどう過ごすか。何もしなくても1日ですが、何かをするのならば、ほとんど制限を受けることなく自由に取り組むことができます。4月には高校総体予選が始まります。予定通りに実施されるのか不透明ですが、何らかの形で実施されることでしょう。新3年生はこれまでの2年間の努力の成果を発表する大切な機会となります。遊んでいる場合ではありませんね。では何をすべきでしょうか。

少し発想を変えてはどうでしょうか。「ピンチをチャンスに」ではなく「ピンチはチャンス」と発想してはどうでしょう。より前向きな気持ちになりませんか。現在は部の活動時間を2時間に制限していますが、春季休業中の活動時間としては少々短い。となると中身を工夫するしかない。時間がふんだんにある環境ではあまり考えることがなかった工夫をすることができるようになる。勉強時間も確保でき、自分だけの自由な時間も確保できるようになります。ひょっとすると漫然と過ごしている人がいるかもしれない中で、少しでも早く取り組むことでより大きなアドバンテージを手にすることができるかもしれません。これが「ピンチはチャンス」です。

今日現在、世界中で株価が乱高下しながら大きく値を下げています。世界中の経済が大混乱しています。身近なところでもマスクや消毒用アルコールが不足し、仕事がない、収入が断たれる等々様々な影響があります。少し長期的にみるとオリンピック、パラリンピックの開催、代表選考、聖火リレー、参加国との国際交流等々楽しみにしていたものがどんどんなくなっています。この困難な状況をどう乗り切れればよいのでしょうか。そもそも乗り切れるのでしょうか。

長い人生は機（機会、状況）と岐（岐路、選択）の連続です。様々な機に岐を迫られる。後向き、前向き、安全志向、果敢な挑戦、いずれにしろその機を積極的に生かす、そんな姿勢でいたいと思います。状況によって対応することを「臨機応変」といいますが、より積極的な考え方を「活機応変（かっきおうへん）」といいます。「ピンチはチャンス」です。どんなに困難な状況になっても、完全に対応策が尽きることはありません。万策尽きるといいますが、前向きな機のとらえ方と発想で万策尽くせば必ず何とかかなります。そして万策尽くす行為こそ学校教育で最も大切にしなければならないものです。今一度自分を見つめ直してみましよう。

さて間もなく新学期が始まります。臨時休業中に少し成長した皆さんと、津島北高校の校舎で共に学べることを楽しみにしています。

令和2年3月19日

校長 柳生 真澄